月桃（げっとう）通信 No17　2019 年 11 月 14 日

石原艶子

首里城より大切なもの　―――それは辺野古、大浦湾の悠久の海―――

★人は皆草のようで、その華やかさはすべて野の花のようだ、草は枯れ花は散る。しかし主の言葉は永遠に変ることがない。（新約聖書　第一ペトロ）

★魂のないシステムを変えるただひとつの方法は、悪魔が張り巡らした蜘蛛の巣の罠一つひとつに対し力強く「ノー」と声を上げることである。（ガンジー魂の言葉から）

人間が絶対に犯してはならない罪は、人を殺すことです。人殺しの戦争と、そのためのあらゆる軍事基地を私達は決して許すことは出来ません。

私は子育ての中で、感謝することを大切にしてきました。目に見えるものだけが決してすべてではなく、目に見えない世界を見ること、神を畏れることを、大切にして生きてきました。今、人々は見えるものだけがすべてとする現実、物質主義に陥り、見えない世界の真理と価値を学ぼうとはせず畏れを知らない者となってしまいました。身近では安倍政権の政治家を見ているとよく分る通りです。今や畏れを知らない人間達がこの地球をわがものとし、またこの国を支配しています。一体、人間とは何者なのでしょうか。

★「神を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは分別の初め（旧約聖書　箴言）」

神を畏れることを忘れた人間の能力と限りなき欲望はいみじくもガンジーが語っている様に、悪魔が張り巡らした罠にはまってしまったのです。

★沖縄辺野古、大浦湾の埋め立ては、人間が絶対にしてはならない悪のひとつです。それは神が何万年もの時をかけて創造された人類の宝もの、悠久の海だからです。この辺野古、大浦湾の海が日本初のホープスポット（希望の海）に認定されました。（このプロジェクトを進めるミッションブルーを立ち上げたのは世界的に有名な海洋学者、シルヴィア・アール博士です。）世界に１００以上あるホープスポットのネットワークに加わることが出来たのです。辺野古、大浦湾一帯は数千種の生物が棲む多様性を持ち、その内２００種以上が絶滅危惧種に指定されています。青サンゴ群落が発達し、ジュゴンが棲んでいました。（工事が始ってからその姿は見えなくなっています）海ガメが悠々と泳いでいます。大浦湾は海の生態系と陸の生態系がひとつにつながった所であり、そのシステムが日本の海全体の健康を護るために重要であることを示しています。大浦湾の海水温は、陸の生態系とつながっているシステムの故に温暖化の影響は小さく、海水温が深層では冷たく保たれています。そのお陰でサンゴの白化現象から護られているのです。（ちなみに石垣島と西表島一帯の日本最大規模の石西礁湖では80%のサンゴが白化、死滅しています）大気が巡り、海が空気と水を与えてくれるのです。この海への感謝、自然の恵に生かされている感謝を忘れてはいませんか。昔の人々は自然の中で神に感謝し、目に見えない世界への畏れを持って生き、そこにさまざまな文化、宗教が生れてきたのです。今や人間は、感謝と畏れを忘れ、自然を破壊し続けその欲望は宇宙にまで拡大しています、その先には何がありますか、恐ろしい滅亡へのしるしが見えているではありませんか。

「地とそこに満ちるもの世界とそこに住むものは神のもの　神は大海の上に地の基を置き、潮の流れの上に世界を築かれた。（旧約聖書　詩篇）」

大浦湾をもしも埋め立て軍事基地を造ったら、恐ろしい海の死が待っているでしょう。私達は心で泣きながら「ＮＯ―」を叫び続けています。アメリカ政府と日本政府を相手に、そして目の前に立ちはだかる機動隊員、防衛局員、警備員、土砂・資材を運ぶダンプの運転手、ミキサー車の運転手に向って、工事に協力しないようにと呼びかけ続けているのです。

悪魔が張り巡らした蜘蛛の巣の罠から脱け出す方法は唯ひとつです。今すぐに悪をやめる決断をして、勇気を持って実行するリーダーがアメリカと日本両国に現れること、安倍政権の一日も早い退陣を沖縄の民は切実に願っています。

★首里城炎上

１０月３１日未明、首里城は炎に包まれ１１時間燃え続け、主要な世界遺産は焼失しました。夢かと思う突然の現実に言葉を失い、全県民が悲しみに沈みました。首里城復元は敗戦後の沖縄にとっての悲願の夢であり、１９９２年ついに復元を成しとげ２０００年１２月に世界遺産に登録されました。それがたった２７年で一瞬にして焼失してしまうとは!!私の心に迫る思いは、人間が作ったこの世の形あるものは決して永遠ではなく、滅びてしまうという事実に対する無力と空しさでした。そして形ある物はまた新たな力を結集して再建できるという一方の事実をも思いました。そんな中、強く迫る思いとは、辺野古、大浦湾を埋め立てて失ってしまったら、二度と永久にもどらないという現実の厳しさでした。だから私は首里城を失った悲しみの中であえて声を大にして叫びたいのです。首里城よりも大切なものは神が与えて下さった辺野古、大浦湾の宝の海なんです、と。玉城知事は火災の翌日、首相官邸に菅官房長官を訪ね、首里城再建支援を要望しました。何故こんなに早くなのかいぶかりつつ、この機会に辺野古新基地をやめて、そのお金で再建をと言ってほしかったと思うのは私だけでしょうか。首里城再建の声の中で辺野古は忘れられていくのではとの不安と危機感、反対闘争を支える辺野古基金は底を突きそうなのに、何と一週間で４億円以上の義援金に驚きつつ、原因は特定されないとはいえ国民の税金を使うことが良いのか？２０２２年の復帰５０年記念迄に再建をと、知事が急ぐことに不安を覚えます。全面的支援を約束した安倍政権に恩を売られ、沖縄の魂が抜き取られ琉球が日本のナショナリズムにとり込まれ、国に利用されることになりはしないか不安を抱きます。ゲート前テントに集った人々の中から、この義援金は被災地で苦しんでいる人々の救済と、貧困の子供達を救済するためにこそ使うべきだとの意見が語られました。首里城はみんなの力でゆっくり再建したらよいと。これこそがウチナーの心だと私は感動し、この心をみんなと共に生きていきたいと願いました。

★９日夜天皇陛下の即位を祝う「国民祭典」に３万人参加、日の丸旗を振り君が代を歌い「天皇陛下バンザイ」を３０分も叫び続ける民衆の姿に、天皇制国家日本、戦前回帰を見て、天皇制と安保条約を支持する圧倒的多数の国民の中でまた、沖縄は切り捨てられていくのだと思い知らされました。首里城と共に沖縄植民地博物館を充実させて平和の発信地とすることで、首里城の歴史も生きてくるのではと思いました。新しい発想の転換が必要とされる時だと思い、すべてのことに意味があるのだと考えさせられています。神は一人一人の真実な思い、願い、祈りを決して無にはなさらないと信じます。

2019、11、14日